

公益社団法人 日本獣医師会
会長 蔵内 勇夫 様

令和4年1月25日



「野口英世アフリカ賞」募金委員会
(代表世話人) 衆議院議長 細田 博之
(世話人) (50音順)
日本医科大学理事長 坂本 篤裕
参議院議員 武見 敬三
日本経済団体連合会会長 十倉 雅和
日本医師会会長 中川 俊男

野口英世アフリカ賞
〔野口英世アフリカ賞〕基金のためのご寄付のお願い

拝啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

野口英世博士は、天性の忍耐力で世界的に名声をあげた、日本が世界に誇る医学者です。博士は晩年ガーナに渡り、黄熱病の研究に身を捧げる途上、黄熱病にかかり1928年かの地で亡くなりました。日本政府は、こうした野口博士の功績にあらためて光をあて、アフリカにおける医学研究または医療活動で卓越した業績を顕彰する国際賞として「野口英世アフリカ賞」を2006年に創設しました。

今、新型コロナ・ウィルスは世界中に未曾有の不幸と損害を与えています。それに加えアフリカでは、エイズ、マラリア、結核など多くの感染症が蔓延し、こうした事態に直面するアフリカの人々が、感染症の問題を克服するには、一步一步困難を乗り越えていく忍耐と勇気、こうした野口英世博士の精神が求められています。この精神を「野口英世アフリカ賞」を通じて世界に広めることは、アフリカにとどまらず全世界の医学・医療の向上と、更には、現地アフリカで活躍する多くの人々や研究者の活動を支え、勇気づけます。

野口英世アフリカ賞の賞金は、政府資金に加え、一般の方々からのご寄付も充てられることとなっており、寄付を国民各層に幅広く呼びかけていくための野口英世アフリカ賞募金委員会が設立されております。当募金委員会としましては、皆様からの善意が、野口英世アフリカ賞の受賞者を通じ、アフリカで病に苦しむ人々の助けとなり、ひいては世界の保健・医療の向上に結びつくものと信じております。

つきましては、何卒上記の趣旨へのご理解とご賛同を頂き、賞に体现された野口英世の精神をさらに世界に広めていくため、賞の推進へのご参画、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

野口英世アフリカ賞

令和4年1月
内閣府野口英世アフリカ賞担当室

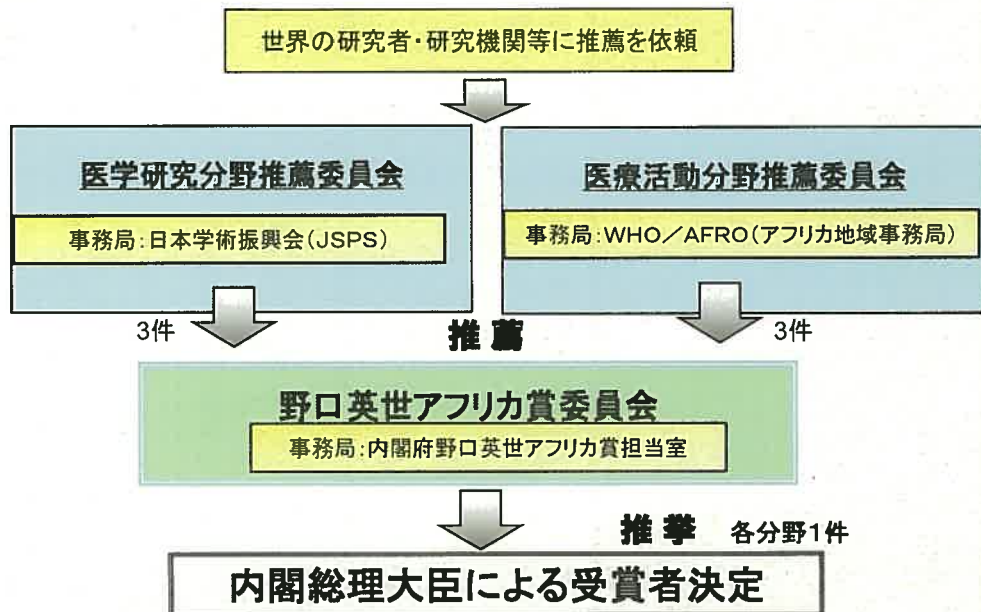
1 野口英世アフリカ賞とは

- 2006年5月の小泉総理(当時)のガーナ訪問時、同国で亡くなった野口英世博士の功績に因み、本賞について着想。2006年7月閣議決定にて創設。
- アフリカでの感染症等の疾病対策及び公衆衛生推進に貢献した個人・団体を顕彰。医学研究・医療活動の2分野。
- アフリカ開発会議(TICAD)の際に授賞式及び晩餐会を開催。(第1回:2008年5月, 第2回:2013年6月, 第3回:2019年8月)

2 賞の周期の変遷(5年→6年→3年)

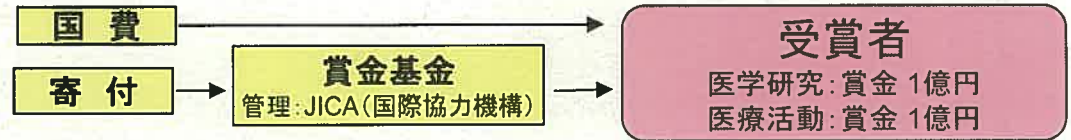
- 本賞はTICADの日本での開催に合わせ実施。(2013年からTICADは3年毎・日本とアフリカでの交互開催となる)
- 2019年8月の第3回授賞式で安倍総理は、本賞授賞をTICAD開催の都度(アフリカ開催時も含め3年毎に)行う旨表明。

3 選考のプロセス



4 賞金(国費と寄付)

- 賞金財源は国費と寄付の半々。寄付は「募金委員会」が受付。寄付額合計約5.2億円。うち3億を賞金原資に活用。
- 寄付残高(昨年3月末現在)は約2.2億円。



5 これまでの受賞者

◆第1回(2008年)



ブライアン・グリーンウッド博士
(英)【医学研究】

ロンドン大学衛生熱帯医学
大学院教授

30年以上にわたるマラリア等感染症の免疫病理学、疫学等の多角的研究と実践に功績。



ミリアム・ウェレ博士
(ケニア)【医療活動】

ケニア国家エイズ対策委員会
委員長

40年間にわたり、地域の医療サービスの提供活動に貢献。

◆第2回(2013年)



ピーター・ピオット博士
(ベルギー)【医学研究】

ロンドン大学衛生熱帯医学
大学院学長

アフリカでエボラ出血熱やエイズなどの感染症について調査研究し国際的な対策を推進。



アレックス・G・コウティノ博士
(ウガンダ)【医療活動】

マケレレ大学感染症研究所長

エイズ感染者の治療機会増大のため先駆的な活動を続け、予防と治療の普及に尽力。

◆第3回(2019年)



ジャン=ジャック・ムエンベ=タム
ム博士(コンゴ民)【医学研究】

国立生物医学研究所(INRB)所長

エボラウイルス病等の研究及び疾病対策の人材育成に多大な貢献。



フランシス・ジャーバス・オマス
ワ博士(ウガンダ)【医療活動】

グローバルヘルスと社会変革のためのアフリカセンター
(ACHEST)所長

保健従事者の教育等人材危機への対処、人材重視の保健・医療制度の構築に尽力。

募金趣意書

「野口英世アフリカ賞」基金のための御寄付の御願い

野口英世博士は、天性の忍耐力で世界的に名声をあげた、日本が世界に誇る医学者です。博士は晩年ガーナに渡り、黄熱病の研究に身を捧げる途上、黄熱病にかかり 1928 年かの地で亡くなりました。日本政府は、こうした野口博士の功績にあらためて光をあて、アフリカにおける医学研究または医療活動で卓越した業績を顕彰する国際賞として「野口英世アフリカ賞」を 2006 年に創設しました。

今、新型コロナ・ウィルスは世界中に未曾有の不幸と損害を与えています。それに加えアフリカでは、エイズ、マラリア、結核など多くの感染症が蔓延し、こうした事態に直面するアフリカの人々が、感染症の問題を克服するには、一步一步困難を乗り越えていく忍耐と、死を恐れぬ勇氣、こうした野口英世博士の精神が求められています。この精神を「野口英世アフリカ賞」を通じて世界に広めることは、アフリカにとどまらず全世界の医学・医療の向上と、更には、現地アフリカで活躍する多くの人々や研究者の活動を支え、勇気づけています。

本賞は、アフリカの医学・医療活動分野の国際賞としてノーベル賞に匹敵するものにとの高い理想を掲げ、賞金は各分野 1 億円です。毎回 2 億円の財源が必要で、半分を国費、半分を皆様からの募金で賄っています。皆様の深いご理解とご支援のおかげをもちまして、昨年 8 月末時点で利息も含め 5 億 2671 万円の寄付がございました。本賞は、これまで 3 回 (2008 年、2013 年、2019 年) にわたって、野口英世博士の志と情熱を継ぐ 6 人の方々に授与されました。

本賞は、「アフリカ開発会議 (TICAD)」の日本開催に合わせ 5 年または 6 年毎に授与されてきました。TICAD は 2016 年からアフリカと日本で 3 年毎に交互開催となり、今般、本賞も 3 年毎の授与になりました。この変更に伴い、第 4 回 (2022 年予定) 及び第 5 回 (2025 年予定) の賞は現在の募金残高 (2 億 1671 万円) で賄えますが、本賞が未永くアフリカと世界で野口英世博士の精神を伝導する灯火であり続けるために、今一度、本賞の趣旨に皆様のご理解とご賛同を頂き、何分のご支援をあらためてお願い申し上げる次第です。

2020年12月

募金委員会世話人会